

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 愛知県知多郡東浦町立片葩小学校 】

1 実践テーマ	【 II・IV 】
2 実施対象者	全校児童及び職員
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (道 徳)</p> <p>② 行事名 (おもてなし講座)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目 標 (ねらい)	<p>2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、国全体でスポーツに関する関心が高まるとともに、障害者スポーツへの注目も高まってきている。本校は、そんな気運に着目し、オリパラ教育を通して、障害の有無に関係なく、共生社会の実現に向けて必要な資質・能力を身に付けさせるきっかけとする。</p> <p>また、グローバル化が進む中、児童が先行き不透明なこれからの時代を自分の力で生き抜いていくために必要な資質・能力を身に付けさせる一助とする。</p>
5 取組内容	<p>1 期日 平成30年11月7日(水)</p> <p>2 場所 東浦町立片葩小学校(体育館)</p> <p>3 日程 10:50~11:50 講師によるお話(低学年の部) 11:50~12:25 教室にて振り返り 13:45~14:55 講師によるお話(高学年の部) 14:55~15:20 教室にて振り返り</p> <p>4 内容 (1) 開会の言葉 (2) 講師紹介 (3) 講師による講演 (4) 御礼の言葉(代表児童) (5) 閉会の言葉</p> <p>5 活動の実際 講師の江上氏には、パワーポイントを活用し、子どもたちにとって視覚的にも分かりやすく説明していただくことができた。 そして、元客室乗務員(CA)という経歴を生かし、日本人の</p>



おもてなしはもちろん、グローバルな視点に立った挨拶やマナーを体験活動を取り入れながら楽しく学ぶことができた。

また、小学校は、発育段階にも差が生じることから、1～3年生までの低学年の部と、4～6年生までの高学年の部に分けて2部制で行っていただいた。内容も言葉の言い回しなど、表現の仕方に変化を付けたり、一部内容を高学年向きに修正したりするなど、子どもたちへの配慮もしていただき、講師の先生の実績と経験に裏付けられた充実した講座となった。

(1) 挨拶やマナー

東京大会には、日本人のみならず、海外からたくさんの外国人の方が日本を訪れることになる。グローバルな視点に立って、外国の挨拶の仕方やマナーを学ぶことは大変有意義なこととなった。具体的には、アイコンタクトの重要性、握手の仕方、物を手渡す際の「目一物一目」の原則、笑顔の大切さ、ノックは3回が基本で、目上の人への来室は4回打つなど、東京大会のみならず、社会人としての資質能力の向上にも役立つ内容でもあった。

(2) 分離礼の意義

お辞儀をしたまま挨拶をすると、声を下に向かって発することになる。相手に声を通して気持ちが届きにくくだけでなく、耳に障害のある方にとっては、口の動きを見て発語を理解する視点があることを新たに学び、礼儀作法を通して、障害者理解を深めることができた。

総じて、おもてなしの心とは、伝える側の一方的な思いではなく、文化の違いを理解し、「相手を思いやること」がおもてなしにとって一番大切なことということ、あらためて認識する貴重な講座となった。

6 活動の様子



6 主な成果

◇講座を通して、礼儀・マナーを学ぶとともに、おもてなしの心を行動で表現するために必要な笑顔・アイコンタクト等、相手を思いやる気持ちの大切さに気付くことができた。

◇日本のおもてなしだけでなく、国際的な礼儀・マナーを学ぶことによって、グローバルな視点に立ち、相手に合わせたおもてなしを実践するための一助となった。

◇日本と外国との文化の違いを深めることができた。

	<p>◇分離礼にはきちんとした意味があり、その学習を通して、障害者理解を深めるきっかけとなった。</p> <p>◇相手に応じて言葉遣いを使い分ける大切さをあらためて認識する機会となった。</p> <p>◇2020年東京大会を見据え、日本に来た外国人が、日本に来てよかったと思えるように関わってみたいと思うようになり、東京大会を楽しみにする気持ちが高まった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>◇小学校の発達段階に配慮し、低学年の部(1~3年)と高学年の部(4~6年)に分け、2部制で講座を開催することとした。</p> <p>◇元客室乗務員を講師としてお招きすることで、日本のおもてなしの心はもちろん、グローバル社会における他国の礼儀マナーについても新鮮な情報提供をいただくこととした。</p> <p>◇プロのおもてなしに触れさせることで、児童の学習意欲を高める取り組みとした。</p> <p>◇体験活動を取り入れることによって、児童が主体的に楽しく学ぶきっかけづくりとした。</p> <p>◇校内の事業とせず、町内の小中学校にも案内を出し、希望者には参観していただくように広報した。</p>
8主な課題等	<p>◇今年度以上に、県や知多管内に情報発信していくかが課題として残った。</p> <p>◇県教委からも、HPを活用することで、事後報告はもちろん、事前周知を図り、希望者が参観できる環境づくりを進めていただきたい。</p> <p>◇打ち上げ花火的な事業とならず、例えば、年2回実施し、つながりのある活動を展開することで、事業の成果をより確かに分析することができると思う。</p> <p>◇新学習指導要領の観点から、体験型・問題解決型を取り入れ、子どもたちが主体的・対話的で深い学びにつながる活動内容を検討していく。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>◇本年度に引き続き、推進校に立候補し、継続して事業に取り組んでいきたい。</p> <p>◇事業内容等は、上記の課題の克服を目指して、より充実した活動としていきたい。</p> <p>◇来年に東京オリンピック・パラリンピック大会を控えているので、有名アスリートによる実技指導が実現すると、子どもたちの夢も膨らみ、大会への関心もさらに高まるのではないかと考える。</p> <p>◇本校のねらいを達成するためには、オリンピックよりもむしろ、パラリンピックに焦点化し、障害者理解を深めるとともに、共生社会の実現に貢献できる活動を続けていきたい。</p>